

学 位 論 文 要 旨

ソフトウェア情報学研究科(博士後期課程)

学籍番号 2362013202

氏 名 鈴木秀顕

研究室名 布川研究室

1 題目 (日本語及び英語で記載すること)

電子書籍の事業モデルに関する研究

Research on the model of the electronic book business

2 要旨

電子書籍の普及は著しい。しかし一方では、その事業モデルは十分に把握されておらず、電子書籍研究のポジショニングが不明確であると言える。現在の電子書籍産業の状況は、アナログ書籍の電子化から進められてきている。そのため、紙への印刷とデジタルコンテンツ制作など書籍の制作工程との比較において、電子書籍のほうが制作費用が低いのではないかという消費者意識により、電子書籍の単価がどんどん低下している状態である。一方、日本国内の電子書籍は、ケータイコミックが市場を牽引している状況もある。しかし、ケータイコミックにおいても、単価が低下している状態にある。このままの状態では電子書籍産業が進んでいくと、電子書籍における市場が縮小していく恐れが考えられる。さらに、知の継承や文明の進展、文化の醸成の任を負っていた書籍そのものがすたれる恐れも考えられる。

本論文では、電子書籍産業の事業モデルを整理提案し、また電子書籍研究の状況を分析することにより、今後の電子書籍に関する事業モデルについて考察する。

(先行研究)

電子書籍の事業モデルに関する先行研究は、以下の3系譜の中で進められてきた。

- ・電子化に伴う技術の研究開発
- ・事業化の研究開発
- ・サービスの研究開発

産業と研究開発の関係は、モノを中心とした中では、研究開発機関が産業界に先んじて研究開発を行い、産業界へ還元する形が主流であった。しかし、デジタルコンテンツに分類される電子書籍事業では、産業界が主導の研究開発になっている。

それらの先行研究において明らかになってきたことは、個々が生産物を安定的に届けるための研究開発であり、加えて個々の研究開発の連携が薄いということである。産業モデルを検討するためには、製造・流通・販売というバリューチェーンに基づく展開をしなければならないが、そのための指標モデルが不十分であり、読者の価値分析には至っていないことである。

(論文構成)

バリューチェーンに基づいた産業モデルの検討をするためには、

- (1) 電子書籍の指標モデルを構築し、本来のモデルを導き出すために足りない部分
- (2) これまでの業界の歴史的流れの把握による将来の予測
- (3) これまでの研究分野での状況の把握と将来展望
- (4) そのもとでのモデルのフィージビリティ調査が必要。

本論文では、これら一連に対する一つの回答を提案する。

- (1) のためにTSPモデルの提案
- (2) のために電子書籍の世代を提案し分析
- (3) のために電子書籍の事業に関する文献の調査分析
- (4) 生産者志向と消費者志向の融合，産業界と研究機関との融合による電子書籍産業モデルの検討

(様式4-1)

No. 1